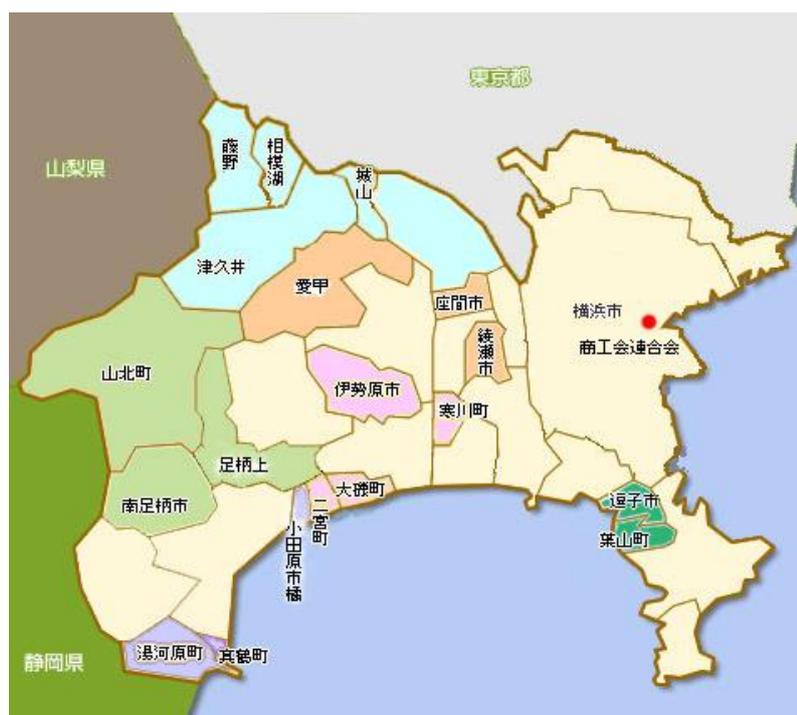


神奈川県 商工会地区

中小企業景況調査報告書

—平成28年4月～6月期 実績—
—平成28年7月～9月期 見通し—



神奈川県商工会連合会

中 小 企 業 景 況 調 査(平成28年4月～6月期)

◇調査概要

1. 調査目的

商工会地区内の地域産業の状況、経済動向等について一定期間ごとに変化の実態や諸事情を把握し、経営改善普及事業の効果的実施を図る。

2. 調査対象

(1)対象地区

10商工会地区

(逗子市・二宮町・寒川町・小田原市橘・湯河原町・愛甲・南足柄市・山北町・津久井・藤野)

(2)対象企業数

150企業

(3)回答企業数

149企業(回答率99%)

3. 調査対象期間

平成28年4月～6月期(調査時点 平成 28年6月1日)

4. 調査方法

(1)商工会の経営指導員による訪問面接調査

(2)調査対象地区の決定は、商工会地区市町村の人口規模別実態を勘案し、調査対象企業の抽出は、業種、規模等有意選出法による。

5. 対象地区別回答企業数内訳

商工会名	製造業	建設業	小売業	サービス業	調査企業数
逗子市商工会	3	2	3	7	15
二宮町商工会	3	2	4	6	15
寒川町商工会	3	2	4	6	15
小田原市橘商工会	3	2	3	6	14
湯河原町商工会	2	2	2	9	15
愛甲商工会	2	2	3	8	15
南足柄市商工会	2	2	3	8	15
山北町商工会	3	2	4	6	15
津久井商工会	3	2	4	6	15
藤野商工会	3	2	4	6	15
合 計	27	20	34	68	149

6. DIとは

本報告書の中で一部数字に用いた「DI」指数とは、ディフュージョンインデックス(景気動向指数)の略で、企業経営者の景気見通しを表す指標として利用されている。

増加(上昇、好転、長期化)と減少(低下、悪化、短期化)の企業割合の差を示す。

DIがプラス(+)なら……強気(楽観)

DIがマイナス(-)なら……弱気(悲観)

(例)売上高で増加企業50%、不変企業30%、減少企業20%の場合のDI指数

DI指数…50%－20%＝30%

となり、全体としての経営者の売上に対する強気の度合いを表している。

◇業種別(中分類)企業構成

(1)製造業

業種内訳	企業数	構成比
食料品製造業	2	7.4%
飲料・飼料・たばこ製造業	2	7.4%
繊維工業	1	3.7%
衣服・その他繊維製品製造業	2	7.4%
木材・木製品製造業	1	3.7%
家具・装備品製造業	2	7.4%
パルプ・紙・紙加工品製造業	0	0.0%
印刷・同関連業	1	3.7%
化学工業	0	0.0%
プラスチック製品製造業	1	3.7%
窯業・土石製品製造業	0	0.0%
金属製品製造業	4	14.8%
一般機械器具製造業	3	11.1%
電気機械器具製造業	3	11.1%
輸送用機械器具製造業	1	3.7%
精密機械器具製造業	1	3.7%
その他製造業	3	11.1%
合 計	27	100.0%

(2)建設業

業種内訳	企業数	構成比
総合工事業	13	65.0%
職別工事業	4	20.0%
設備工事業	3	15.0%
合 計	20	100.0%

(3)小売業

業種内訳	企業数	構成比
各種商品小売業	0	0.0%
織物・衣服・身の回り品小売業	2	5.9%
飲食料品小売業	13	38.2%
自動車・自転車小売業	1	2.9%
家具・建具・じゅう器小売業	2	5.9%
その他小売業	16	47.1%
合 計	34	100.0%

(4)サービス業

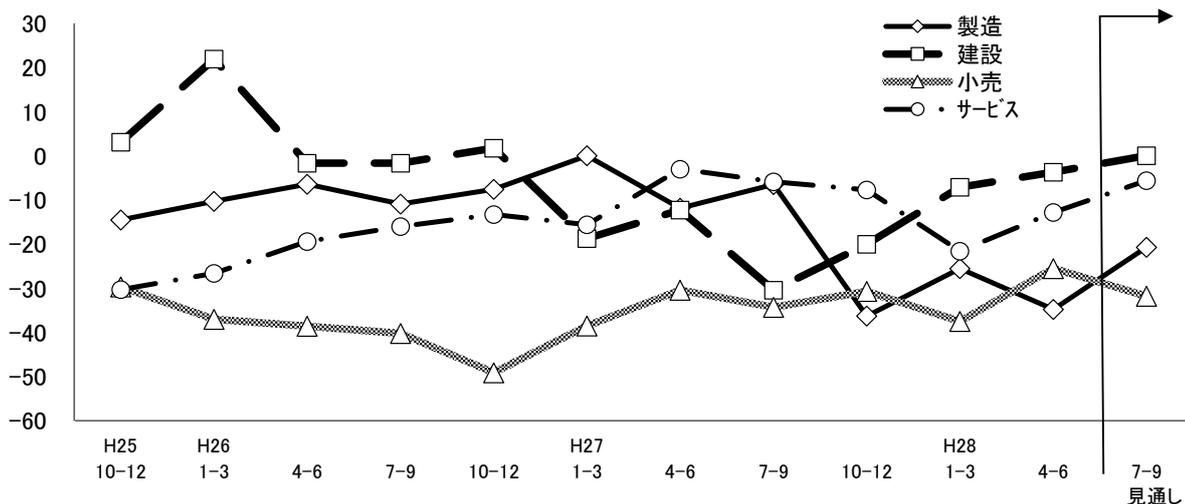
業種内訳	企業数	構成比
一般飲食店(一般・遊興)	19	27.9%
宿泊業	6	8.8%
運送業	0	0.0%
自動車整備業	3	4.4%
洗濯・理美容業	22	32.4%
その他のサービス業	18	26.5%
合 計	68	100.0%

◇産業全体の景況概要

関東経済産業局によると、生産活動は、輸送機械工業をはじめ13業種で上昇したことから3か月ぶりの上昇となった。
 また、雇用情勢は、有効求人倍率が上昇するなど、総じてみると管内経済は、一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに改善している。今後については、国際情勢や金融市場の動向に留意するとともに、熊本地震の管内経済に与える影響にも留意する必要がある。(4月のデータを中心として)

- ・鉱工業生産活動は、弱含みで推移している。
- ・個人消費は、一部に弱い動きがみられるものの、持ち直している。
- ・雇用情勢は、改善している。
- ・設備投資は、持ち直している。
- ・公共工事は、4か月連続で前年同月を上回った。
- ・住宅着工は、3か月連続で前年同月を上回った。
- ・輸出入は、輸出は前年同月を下回り、輸入も前年同月を下回った。

産業別 過去3年間の業況DI(前年同期比)の推移
 (平成25年10-12月期～平成28年7-9月期)



業種別景況天気図

	製造業 27企業		建設業 20企業		小売業 34企業		サービス業 68企業	
	DI	天気図	DI	天気図	DI	天気図	DI	天気図
H27/7-9	△ 6.5		△ 30.4		△ 34.3		△ 5.9	
H27/10-12	△ 36.3		△ 20.0		△ 30.7		△ 7.7	
H28/1-3	△ 25.5		△ 7.1		△ 37.5		△ 21.6	
H28/4-6	△ 34.8		△ 3.7		△ 25.5		△ 12.8	
H28/7-6 (見通し)	△ 20.7		0.0		△ 31.8		△ 5.6	

DI: 30.1～.....

DI: 10.1～30.0.....

DI: 10.0～△10.0...

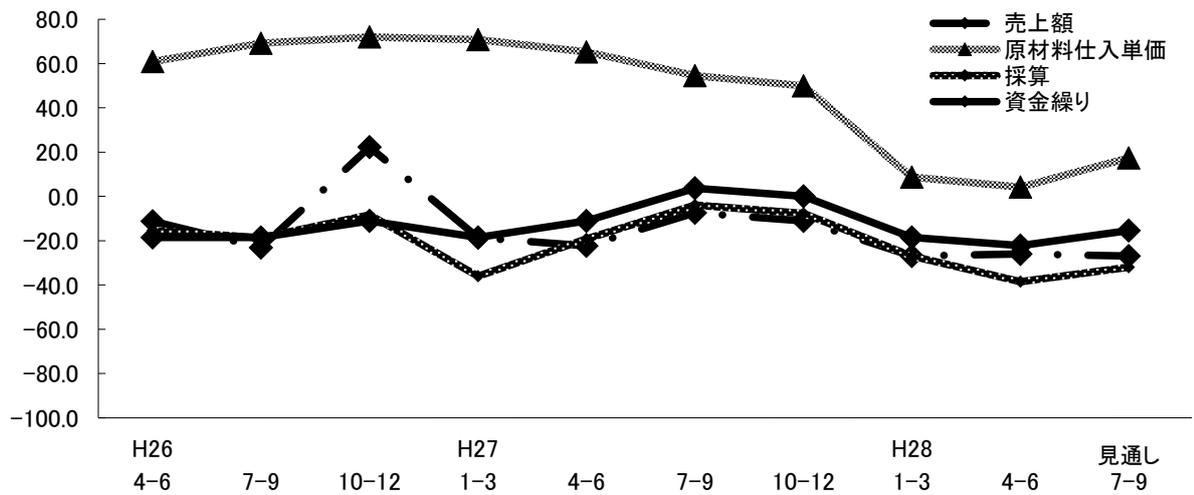
DI: △10.1～△30.0•

DI: △30.1～.....

◇業種別景況概況

I 製造業

主要景況項目の推移—前年同期比—

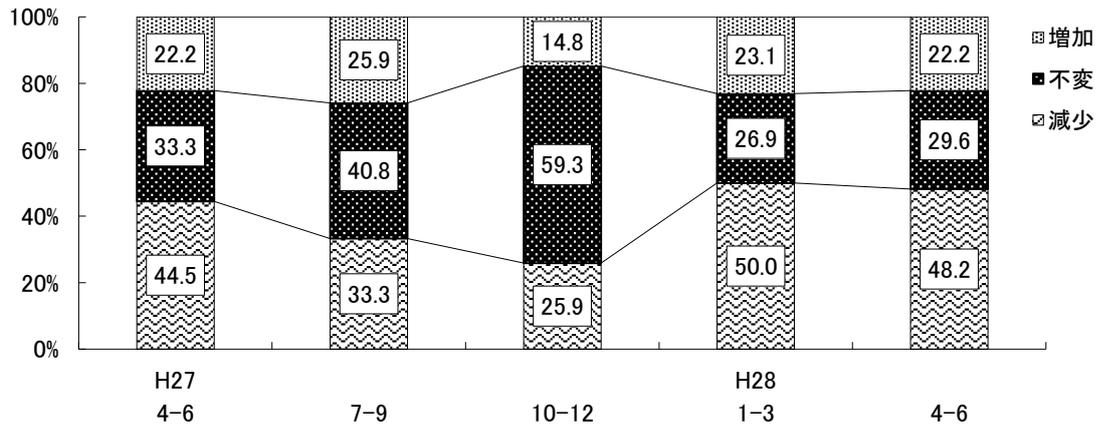


主要項目の天気図

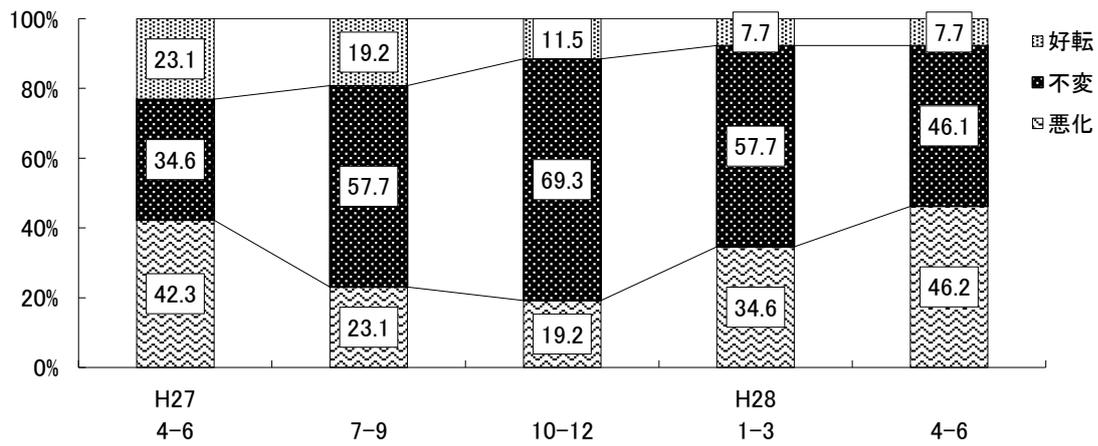
	売上額		採算		資金繰り		業況	
	DI	天気図	DI	天気図	DI	天気図	DI	天気図
H27/7-9	△ 7.4		△ 3.9		3.7		△ 6.5	
H27/10-12	△ 11.1		△ 7.7		0.0		△ 36.3	
H28/1-3	△ 26.9		△ 26.9		△ 18.5		△ 25.5	
H28/4-6	△ 26.0		△ 38.5		△ 22.2		△ 34.8	
H28/7-6 (見通し)	△ 26.9		△ 32.0		△ 15.4		△ 20.7	

DI: 30.1~..... ☀
 DI: 10.1~30.0..... ☀
 DI: 10.0~△10.0... ☁
 DI: △10.1~△30.0• ☁
 DI: △30.1~..... ☁

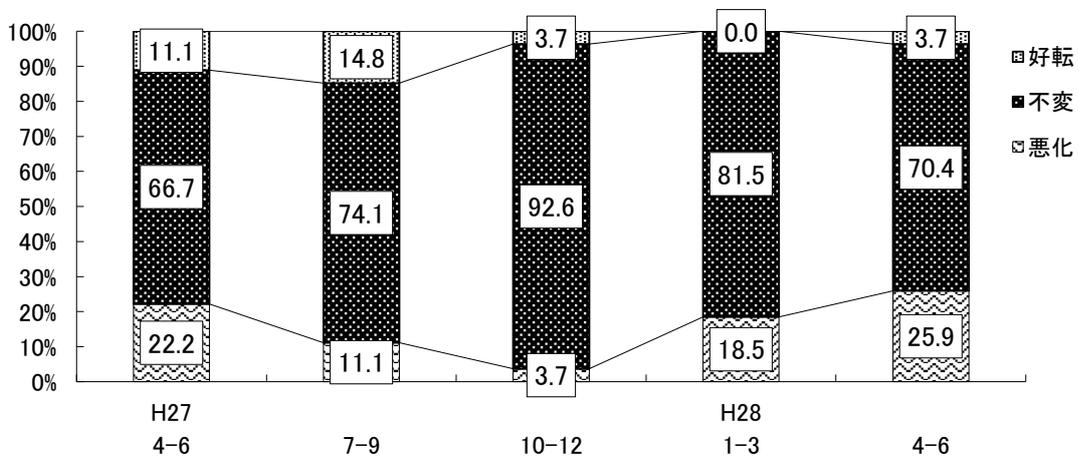
① 売上額の状況－前年同期比－



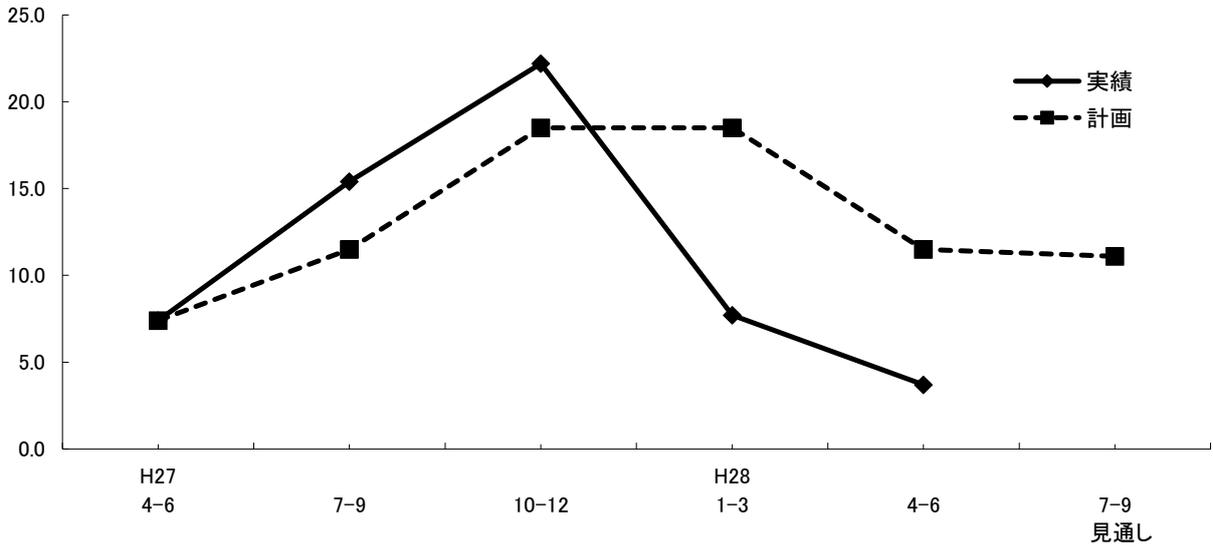
② 採算の状況－前年同期比－



③ 資金繰りの状況－前年同期比－

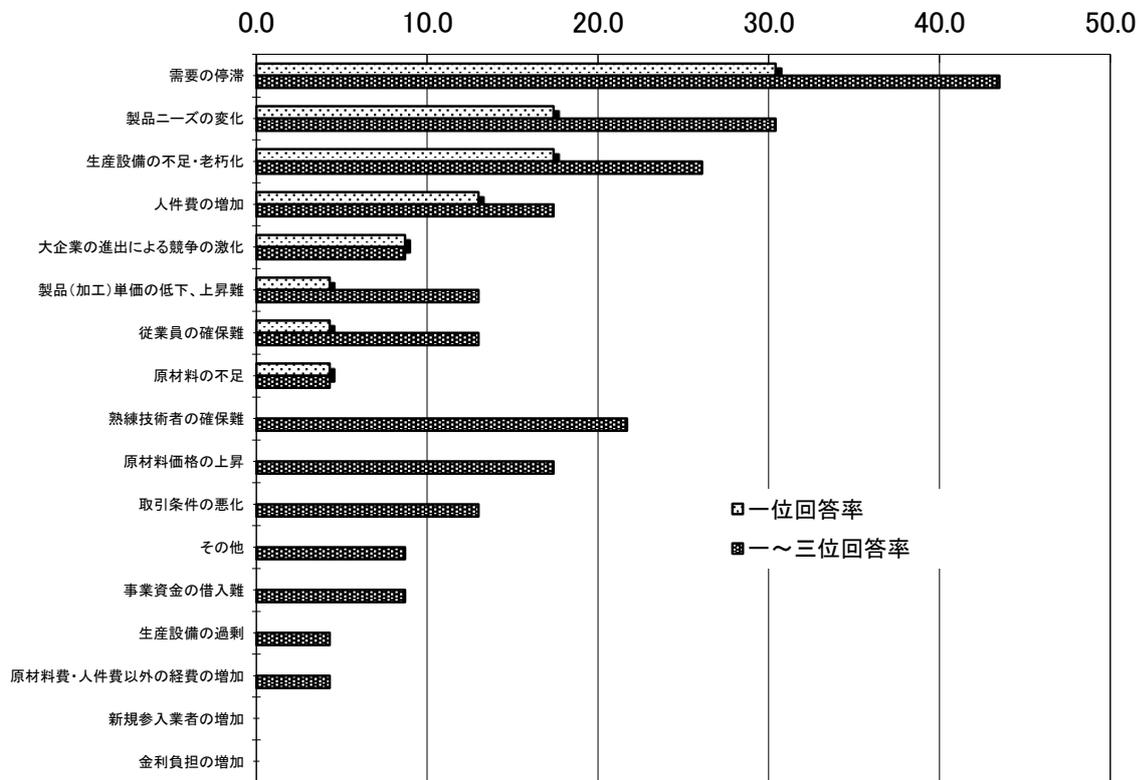


④設備投資の状況



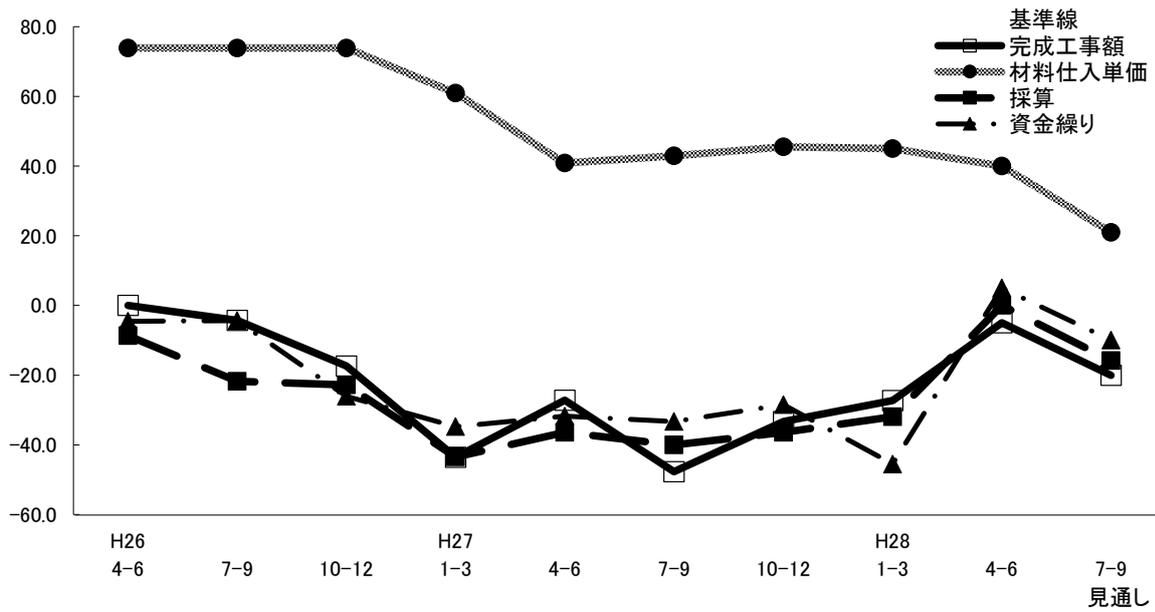
⑤経営上の問題点

企業が選んだ経営上の問題点は示すとおり。
経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)



Ⅱ 建設業

主要景況項目の推移—前年同期比—



主要項目の天気図

	完成工事額		採 算		資金繰り		業 況	
	DI	天気図	DI	天気図	DI	天気図	DI	天気図
H27/7-9	△ 47.7		△ 40.0		△ 33.3		△ 30.4	
H27/10-12	△ 33.3		△ 36.4		△ 28.5		△ 20.0	
H28/1-3	△ 27.3		△ 31.9		△ 45.5		△ 7.1	
H28/4-6	△ 5.0		0.0		5.0		△ 3.7	
H28/7-6 (見通し)	△ 20.0		△ 15.8		△ 10.0		0.0	

DI: 30.1~.....

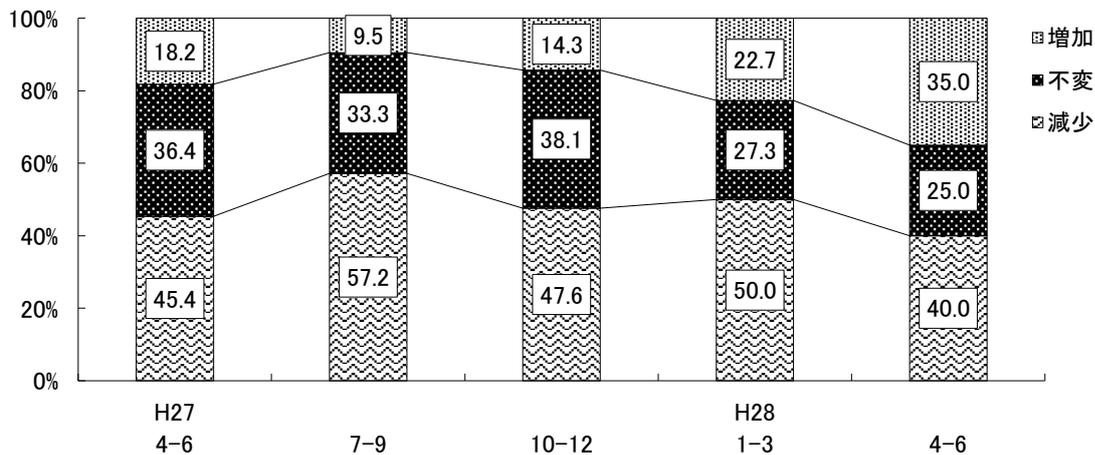
DI: 10.1~30.0.....

DI: 10.0~△10.0...

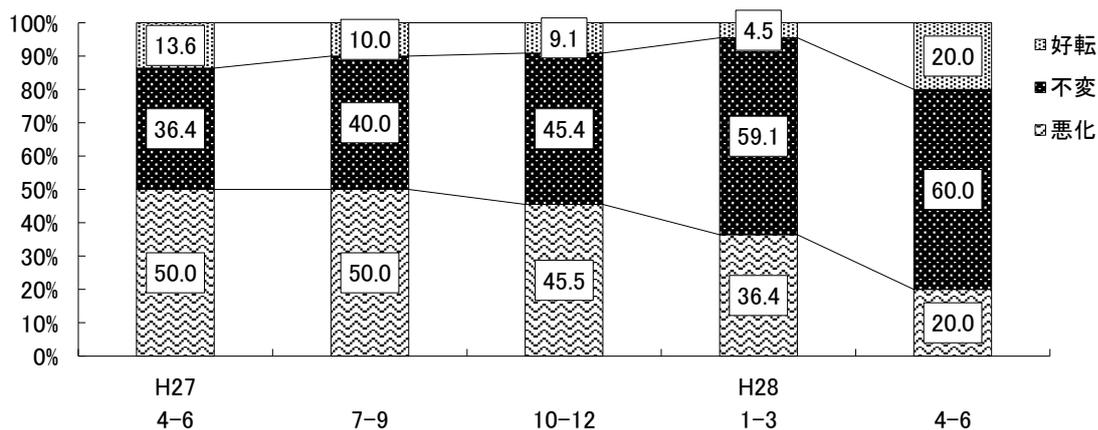
DI: △10.1~△30.0

DI: △30.1~.....

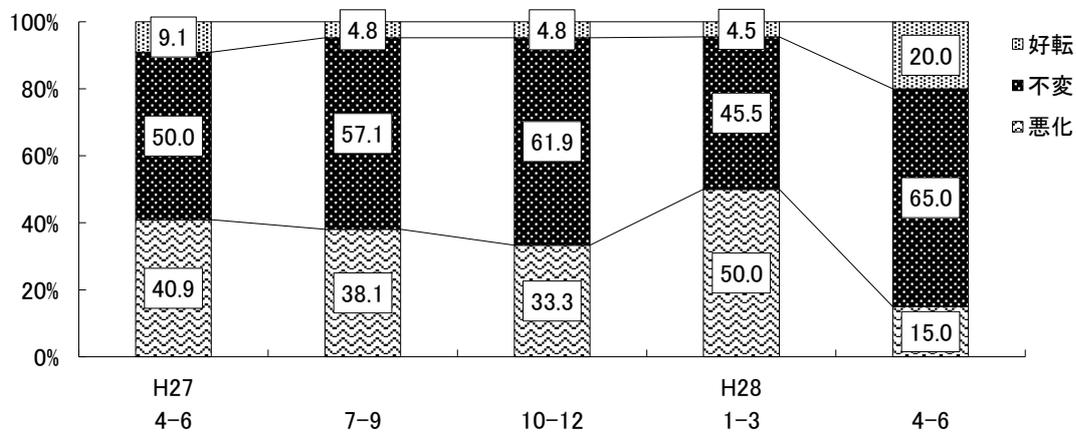
①完成工事額の状況－前年同期比－



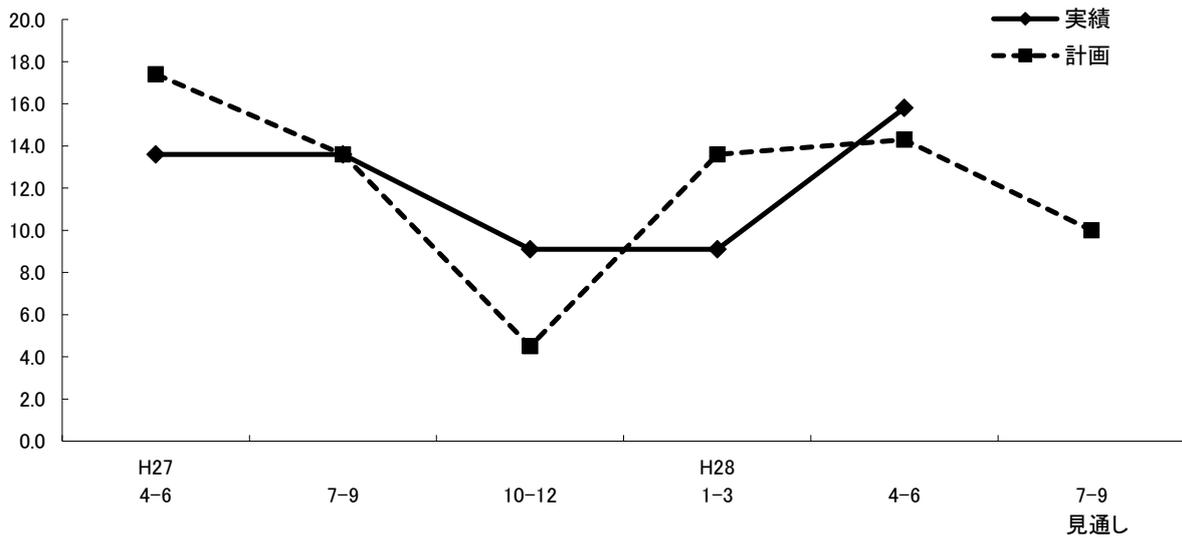
②採算の状況－前年同期比－



③資金繰りの状況－前年同期比－

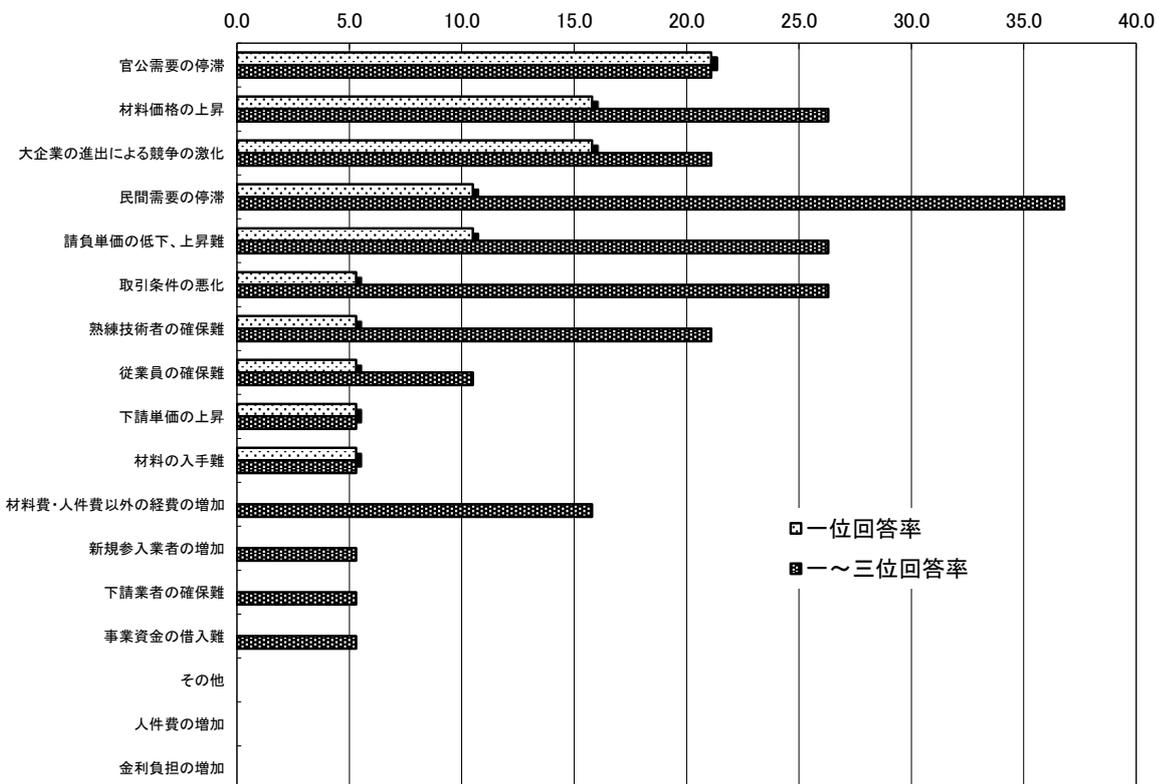


④設備投資の状況



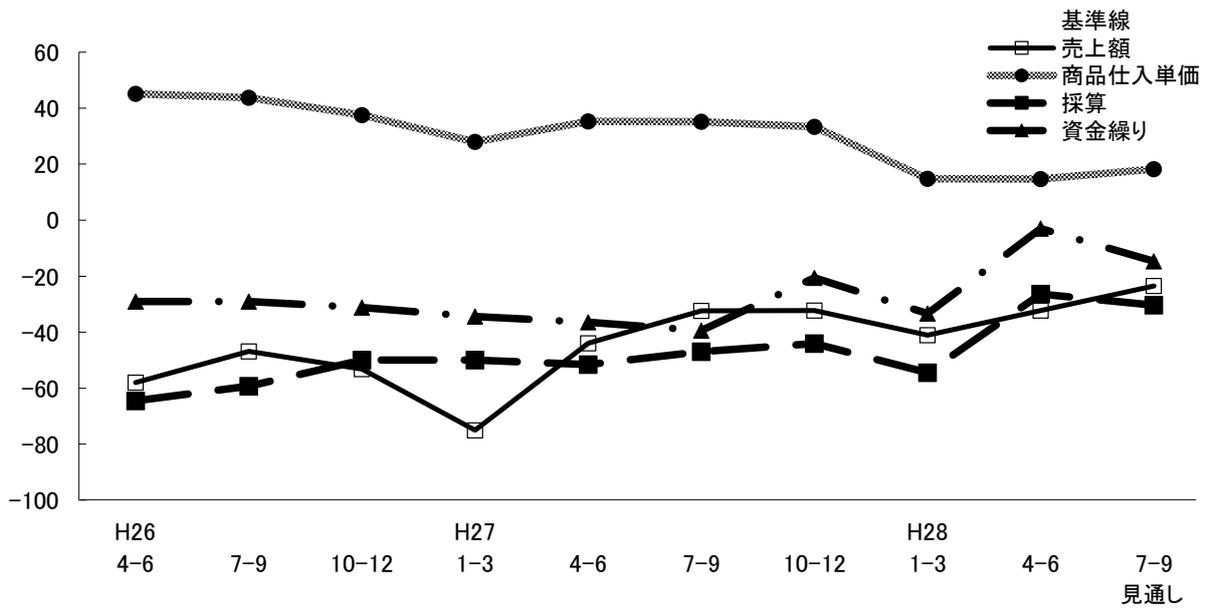
⑤経営上の問題点

企業が選んだ経営上の問題点は示すとおり。
経営上の問題点の状況（1位と1位～3位）



Ⅲ小売業

主要景況項目の推移—前年同期比—



主要項目の天気図

	売上額		採算		資金繰り		業況	
	DI	天気図	DI	天気図	DI	天気図	DI	天気図
H27/7-9	△ 32.4		△ 47.0		△ 39.4		△ 34.3	
H27/10-12	△ 32.3		△ 44.1		△ 20.6		△ 30.7	
H28/1-3	△ 41.1		△ 54.5		△ 33.3		△ 37.5	
H28/4-6	△ 32.3		△ 26.4		△ 3.0		△ 25.5	
H28/7-6 (見通し)	△ 23.5		△ 30.3		△ 14.7		△ 31.8	

DI: 30.1~.....

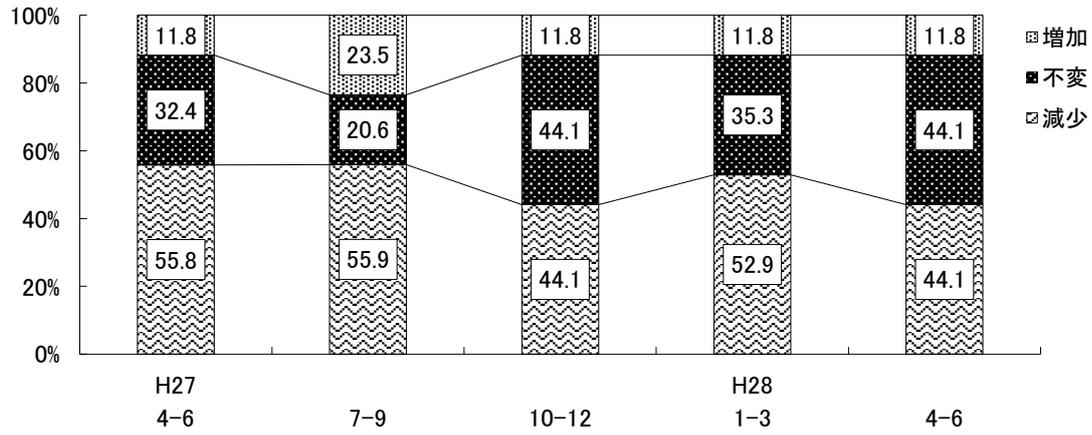
DI: 10.1~30.0.....

DI: 10.0~△10.0...

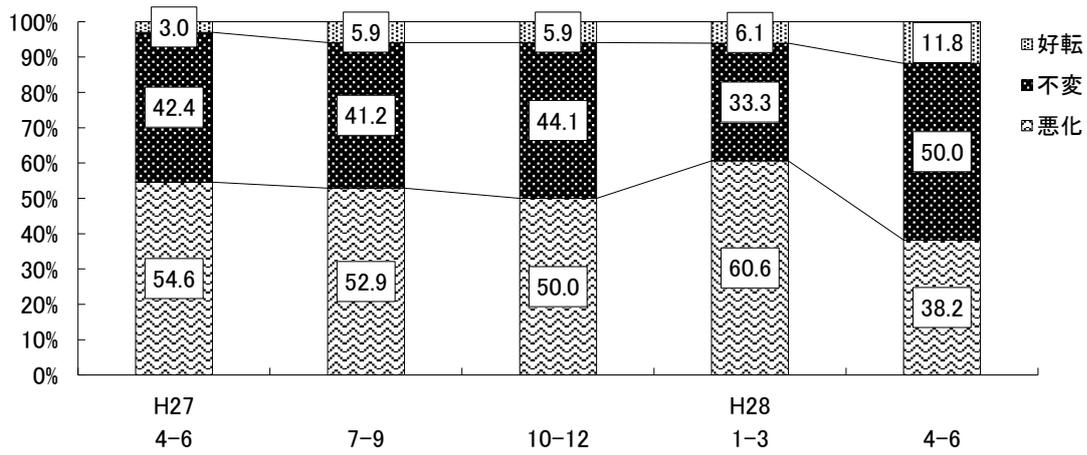
DI: △10.1~△30.0

DI: △30.1~.....

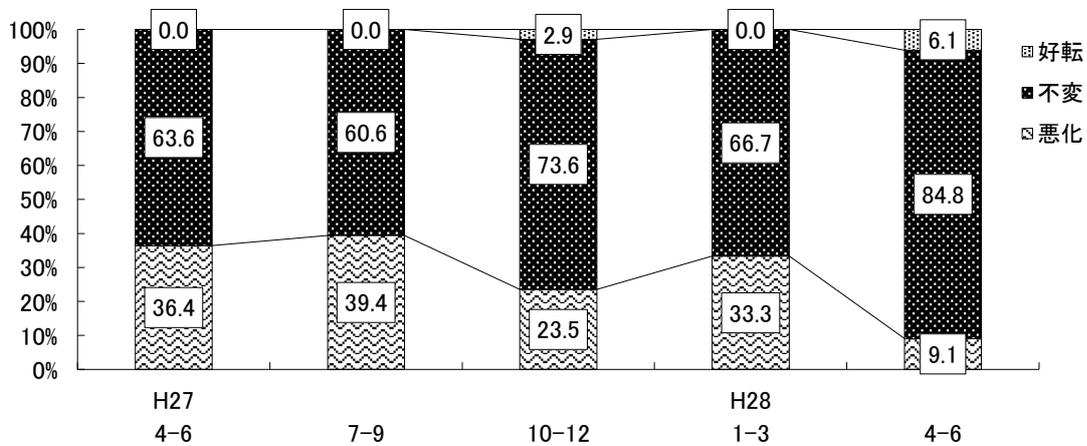
①売上額の状況－前年同期比－



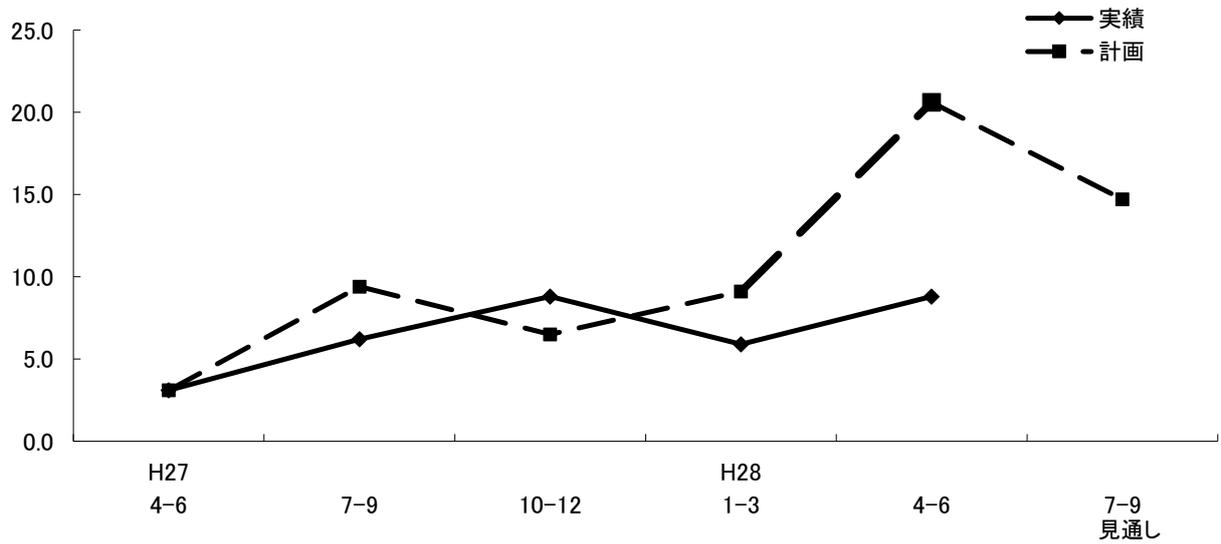
②採算の状況－前年同期比－



③資金繰りの状況－前年同期比－

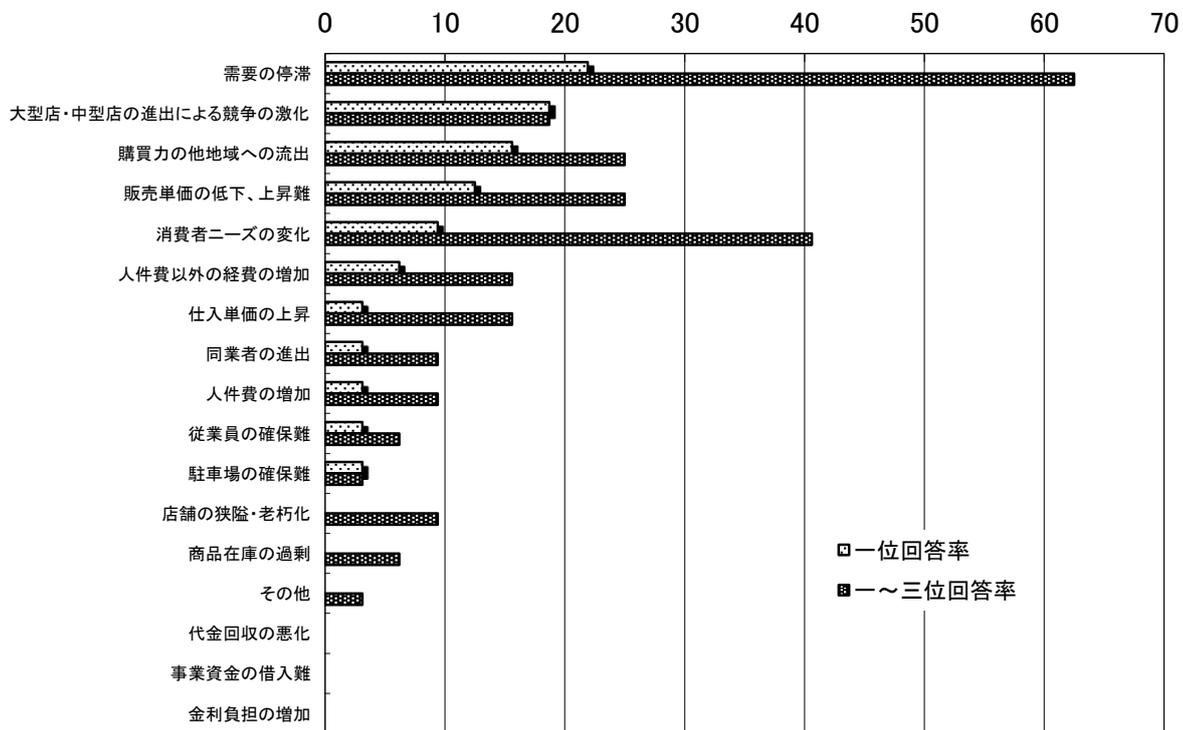


④設備投資の状況



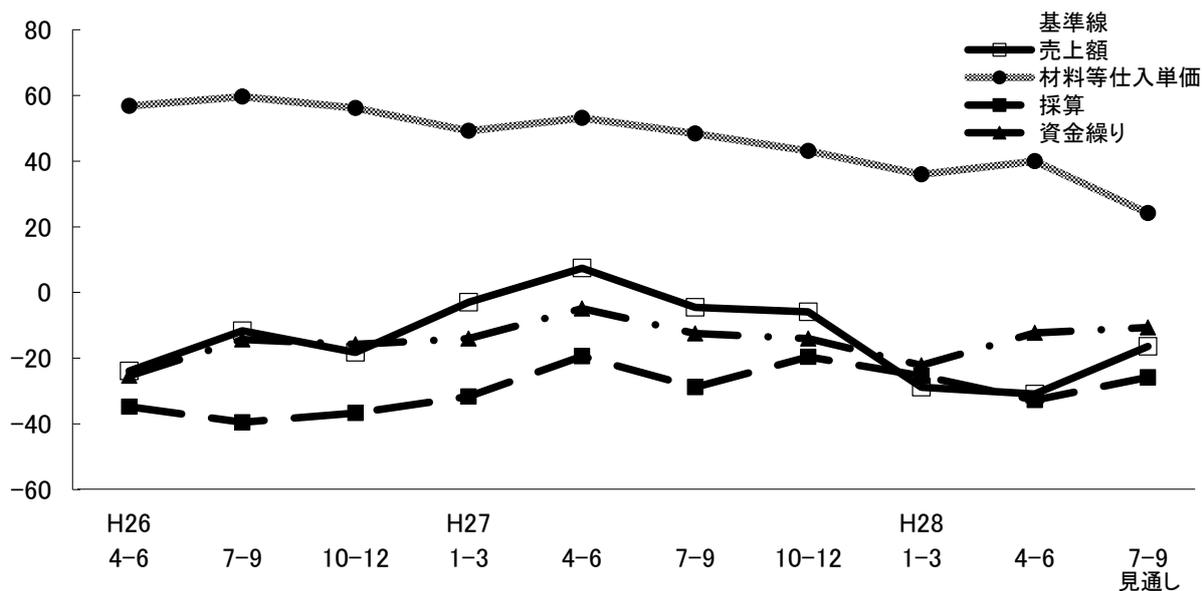
⑤経営上の問題点

企業が選んだ経営上の問題点は示すとおり。
経営上の問題点の状況(1位と1位～3位)



IVサービス業

主要景況項目の推移—前年同期比—

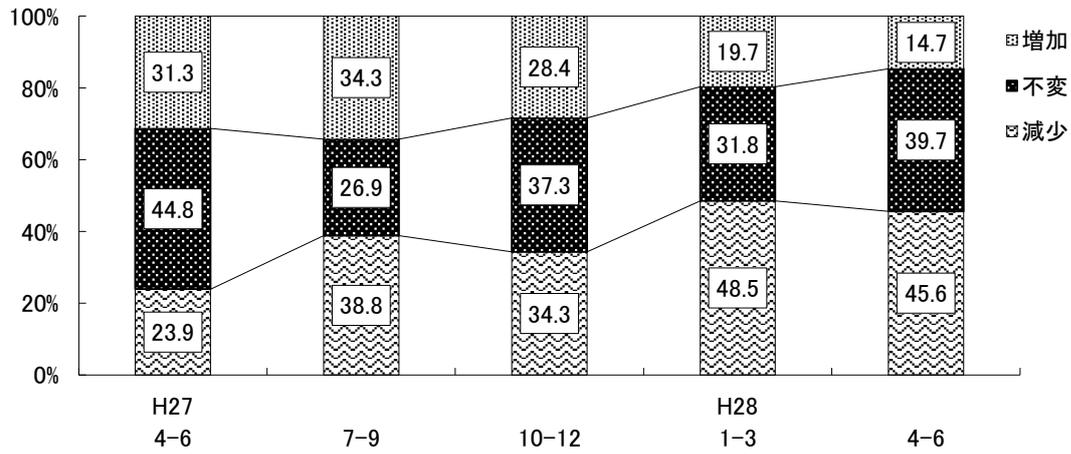


主要項目の天気図

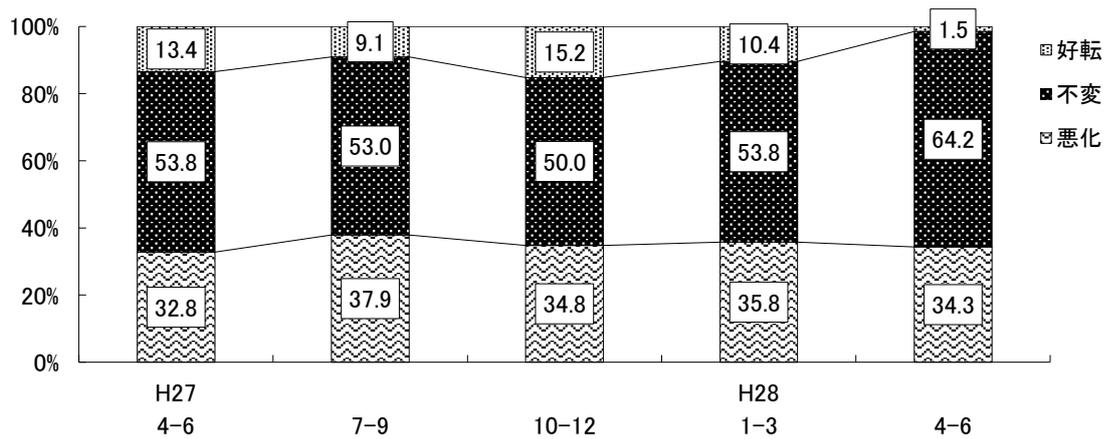
	売上額		採 算		資金繰り		業 況	
	DI	天気図	DI	天気図	DI	天気図	DI	天気図
H27/7-9	△ 4.5		△ 28.8		△ 12.5		△ 5.9	
H27/10-12	△ 5.9		△ 19.6		△ 14.0		△ 7.7	
H28/1-3	△ 28.8		△ 25.4		△ 22.2		△ 21.6	
H28/4-6	△ 30.9		△ 32.8		△ 12.3		△ 12.8	
H28/7-6 (見通し)	△ 16.4		△ 25.8		△ 10.7		△ 5.6	

DI: 30.1~..... ☀
 DI: 10.1~30.0..... ☀
 DI: 10.0~△10.0... ☁
 DI: △10.1~△30.0• ☁
 DI: △30.1~..... ☔

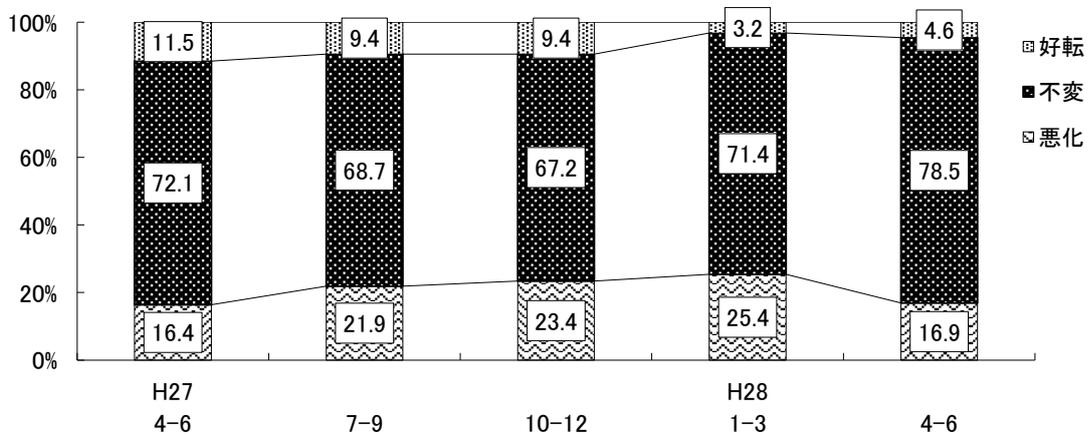
①売上額の状況－前年同期比－



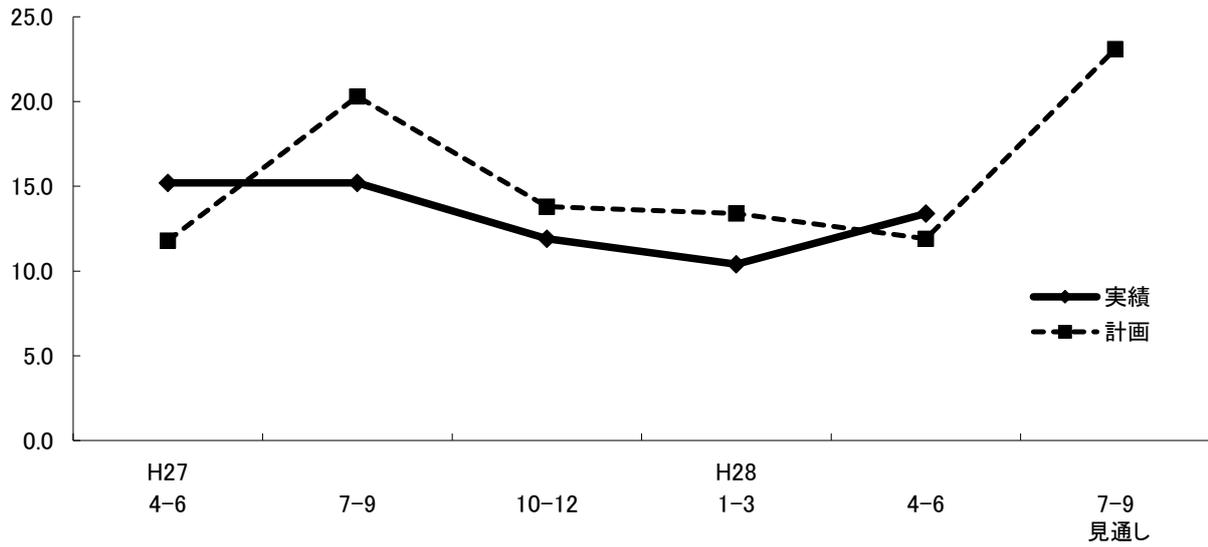
②採算の状況－前年同期比－



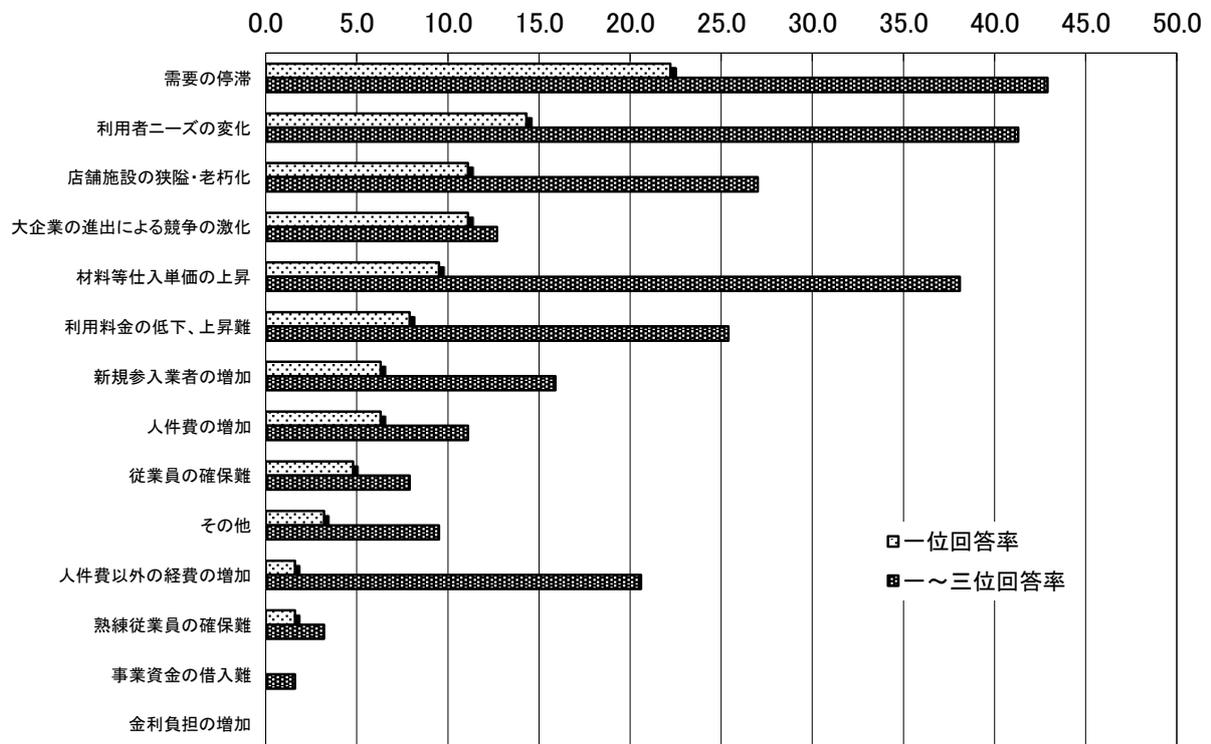
③資金繰りの状況－前年同期比－



④設備投資の状況



⑤経営上の問題点 企業が選んだ経営上の問題点は示すとおり。
経営上の問題点の状況(1位と1位~3位)



景況判断の背景

製造業

- ◇ 官需要が減少している。
- ◇ 受注は安定している。採算性の高い受注を見込みたい。
- ◇ 主に受注が減少している。
- ◇ 新規設備の動きが全く感じられていない。国が企業に対して投資に積極的になる様な動きが見えなく、消費税にこだわり過ぎて収税のみに進むとデフレが深刻になり、消費が冷え込む方向に進む気がします。
- ◇ 製品ニーズの変化が思うより速く次のニーズをとらえる事が大事と感じている。
- ◇ 来客数の減少。取引ごとの単価の減少。
- ◇ 特段、現状では業況の変化は見込んでないが、今後将来的に後継者・設備に関して問題が出てくるのが予想されるので、今のうちから取り組んでいく。
- ◇ 消費税増税に伴うかけ込み受注と感じられる注文もあり、増税後のリバウンドによる受注の減少が懸念される。新規顧客の確保と様々な業種への働き掛けが必要とされている。
- ◇ 毎月、売上が平均していない為、先行が不安。
- ◇ 中国向け製品の、出荷の減少。出荷制限をしている。材料(銅線)の入荷が特に悪く、注文に対応出来ていない。

建設業

- ◇ 思っていたよりも、落ち込みが少なく、売上は好調に推移している。
- ◇ 官公特に県の受注工事が好調に推移している。今後も継続的に。
- ◇ 業況は昨年同様悪化。
- ◇ 大企業やリフォーム会社が増えて来ている様で、価格競争がありなかなか思い通りの金額では仕事を取れなくなって来ている。
- ◇ 仕事はそこそこあるが、従業員を使うほどの利益率は見込めない。
- ◇ 建設業において、第1・第2四半期の工事発注が少なく、特に公共工事受注がないので、経営状況が悪い。年間通じて発注があれば、ありがたい。
- ◇ 公共工事の停滞の影響によって来期も好転が見込めない状態です。
- ◇ 仕事が増えるよう経済的な業況が望んでいます。
- ◇ コンスタントに依頼はあるが、以前のような勢いを感じるような発注はなく、慎重に発注している様子。

小売業

- ◇ 業界全体の景気が冷え込んでおり、どうにか打破出来るよう、もがいているのが現状である。
- ◇ セール等に売上が繋がってきており、例年よりも好調である。
- ◇ 悪い業況ではあるが、販促によるネットの売上が伸びてきている。
- ◇ 町内の同業社が撤退し客数は増加しているが、売上に結びつかない。公的なお客さんもネット通販や、他の配送業者を利用しているため小売業は相変わらず難しい。
- ◇ 品物が余剰の中、特に必要とされる物が無い。実質賃金が上がっていない状況で消費が低迷しているのにもかかわらず、公共料金、医療費等の負担が増えているので、なかなか商品購買意欲に結びつかない。
- ◇ 需要の停滞がある中で、複合大型店進出により客の流れの変化。
- ◇ 夏場になりますます和菓子業界は低迷することが見込まれる。夏に食べるあっさりとした新商品を開発し、顧客の足を運ぶ機会を増やす事、お中元商戦にいかに加わるかが課題となってくると思われる。
- ◇ 需要の停滞により、先行きの見通しが出来ない。
- ◇ コンビニの普及により自分でつくるより出来たものを買う傾向。少人数化になり少しでも楽をしようとしている。こだわりを持った専門店では客の減少が心配です。
- ◇ 高速料金の値上げ等、経費が多くなるようになった。
- ◇ 近年はインターネットへの流出が若い人を中心に多くなり、来店を減らしていると考えられる。ネット販売もスタートしているが、費用対効果、損益分岐に売上額が達しなく厳しい状況にあり、全体の数字を上げられない。
- ◇ 夏に弱い商売なので来期は不安です。
- ◇ 売り上げ好転、材料がない。又、縦貫道の完成により来客数が減少、今後の来客数の確保が最重要課題。
- ◇ 製品を県内のイベントで広めることを、実施していますが、かなり知れ渡ってきたと思います。これからもがんばっていきましょう。
- ◇ 悪化しないように努力していきたい。

サービス業

- ◇ 受注数も増えてきており、従業員数の不足を感じてきている。
- ◇ 顧客の高齢化、新規競合店の参入できびしい。
- ◇ 人材確保難。理容師になろうとする若者が減少している。
- ◇ リピーターの高齢化が著しい為、新規顧客確保が課題である。
- ◇ 当店は日本そば店である。近隣競合店が減少しているが当店の客数は増えていない。小あがりの客席を高齢者が利用しなくなった。カウンターの席へ改装したい。
- ◇ 店内あちこちが老朽化しており、出来れば修理したい。仕入が上昇しているが客離れが不安で値上げできない。
- ◇ 売上金額は減少している。新規の顧客を増加させる事が課題といえる。
- ◇ 零細企業は先行きの見通しが立てにくく、アベノミクスも3本の矢も関係ないように思える。現状では、二宮町の人口も減少しており、大きな企業もなく不安定が大である。
- ◇ 売上げは下がっています。景気が回復する兆しも期待できないので、ここ数年はひたすら我慢するしかありません。
- ◇ 年配者のお客様が低下し、新規客も獲得出来ていないため全体的に低下。
- ◇ 以前と同じで変りはあまり無い様な気がするが営業努力はなお頑張っていきたいと思う。
- ◇ 自動車(中古)の売上が低下、それに伴う収益の減少。季節要因によるバス部の売上減少等が思考され、今後の営業活動に期待。
- ◇ 顧客の高齢化による自然減や子供や学生の低料金店への流出定着化で売上減少になっている。又、新規客もデフレの影響でなかなか見込めない状態である。
- ◇ 保険診療に対して医者が同意書を書いてくれなくなり、自由診療に移せざるを得ないので、患者数の激減となった。
- ◇ 卒業旅行の学生さんが戻って来た。単価は低いが若い人の人数が増える事を願う。
- ◇ リフォーム仕事が少なくなり売上げが下がりましたが清掃部門は安定している。
- ◇ 特に変化も無く、お客様の動きも活性化する事も無いですが、借入金が減ったことにより、楽になった感じです。
- ◇ 今期は、大型連休があり前後は客足が減り売上も減少した。連休中は売上、客数も前年より増加した。ただし、安定した営業は出来ず、最終的に前年より悪い結果となった。
- ◇ 年一回の入札の結果、大きい物件を失ってしまったので自社の業況は悪化した。しかし、小さな物件を多く集めた方がより安定するので、方向転換する良いキッカケとなったと思う。
- ◇ 業況が悪く債務超過の為、経営環境の向上が厳しい。
- ◇ 都内や立地条件の良い所では多少のにぎやかさがあるものの、交通の便が良くない所や引っ込んだ小店舗は、相変わらず厳しい状況が続いてる。
- ◇ 無理な円安誘導はやめて欲しい。輸入品の価格の上昇を防いで欲しい。大企業より小規模事業者への対策を色々講じて欲しい。
- ◇ アパート退去後のクリーニング、いかに件数をこなすかがカギ。
- ◇ 売上の大半を公共工事の競争入札に頼っており、その落札具合によって経営状況が左右され、不安定感がある。キャンプ場の運営でそれを補いつつあるが、施設の老朽化等の課題も多い。
- ◇ 前年に比べて、やっと安定してきたかなという状況であり、ここからどうお客様を増やしていけるか日々考えています。
- ◇ 利用者ニーズの多様化、仕入単価の上昇、団体旅行の減少で手間はかかるが利益の薄い内容です。まだまだデフレ状態なので、今後もきびしい内容が予想されます。
- ◇ 客数が増加しており、若干ではあるが業況は好転してきているように感じる。
- ◇ 利用者ニーズの変化から外食を利用される方が減少しているように感じる。
- ◇ 大手の新規参入があり、売上・入館者数が減少しています。4月より値上げを行ったので客単価は伸びています。値上げによる客離れが心配です。固定費の削減は限界に達しており、今後、重油価格が上昇すると売上減もあり、経営状況は悪化していきます。